

本検討会の目的と進め方

2023年11月14日

事務局

1. GX製品市場創出に向けた課題

GX製品市場創出に向けた課題（事務局資料①のまとめ）

- 企業が脱炭素製品の開発・市場投入・生産拡大を行うためには、追加的なコストが必要。追加的なコストには様々な類型があり、その投入期の時間軸も様々。企業にとっては、継続的な予見性を持った需要(※購買力の裏付けのある調達意思)が特に重要。
- 具体的なGX製品について、上流の脱炭素投資がどのように最終製品に波及しているか、サプライチェーン全体を通じて見える化していくことが、官民の脱炭素製品の選択を進展させていくためにも重要。
- 自社の排出だけでなく、Scope3を含めたサプライチェーン排出量の算定やその削減を企業に対して求める動きが国際的に進んでおり、Scope3の算定と開示は、企業が行うべき環境対応として今後必須となっていく可能性。他方で、企業評価の観点からは、算定されているかや開示されているかという点の評価が先行しており、Scope3の削減量を積極的に評価するような動きは現時点では限定的。
- 企業が、自社製品のライフサイクル上の排出量を算定・開示・削減する動きが国際的に進んでおり、グリーン製品評価の観点からは、CFP削減の動きは今後も拡大。多排出製品の排除という負のインセンティブを働かせるための手段としてCFPを活用する事例も欧州で顕在化。
- 最終消費者に対する調査では、脱炭素製品を選んで購入したいと考えている層が一定割合存在する一方、そうしたエシカル消費行動に踏み出せていない層も一定数存在。その理由として、「どういった製品が環境負荷が少ないのか分からない」「価格が高いことが多いと思う」等の声が存在。
- GXリーグ「グリーン商材付加価値WG」では、製品が持つ排出量そのものだけでなく、製品が有するGHG排出削減価値量を「 ΔCO_2 」として評価することを提唱。そうした価値がグローバルで市場に付加価値として認識され、活用されるための業界横断の仕組みを提言する予定。

2. 本検討会の目的、今後の進め方

本検討会の目的と進め方

- 本検討会においては、GX製品市場の創出に向けて必要となるGX価値の考え方や評価の在り方等を議論した上で、課題とあるべき方向性について整理することを目的とする。
- なお、上記の研究会を進めるにあたり、事務局より、GXリーグ参画企業のWG等との意見交換を行い、ステークホルダーによる一定の合意形成を得ることも目指す。

2023年11月14日 第一回研究会（本日）

テーマ：「論点と検討の方向性」の提示

2023年12月中旬 第二回研究会

テーマ： 委員による発表① 等

2023年1月以降 第三回研究会

テーマ： 委員による発表② 等
中間整理（案）について【予定】

2023年3月 「中間整理」公表



GXリーグ
参画企業の
WG等

環境省
特定調達品目
検討会

環境省
デコ活応援団
〔 新国民運動
官民連携協議会 〕

GX実現に向けた
専門家WG

中間整理において目指すべきアウトプットのイメージ

- GX市場創出に向けたビジョンと、官民における施策の方向性をとりまとめ、GX価値の社会実装を促進するメッセージを発信してはどうか。

※以下は、本研究会での議論を踏まえてとりまとめるものであり、現時点におけるアウトプットのイメージとして提示。

GX市場創出に向けたビジョン

I. 製品・サービスにおけるGX価値の基本整理

- ◆ グリーン・トランスフォーメーション（GX）によって生み出される新たな価値の考え方
- ◆ GX価値のバリューチェーンを社会全体で見える化し、評価するための観点

II. GX製品市場創出に向けた考え方

- ◆ 社会全体でGX価値を適切に評価し、対価を支払う機運の醸成
- ◆ 公共調達やGXリーグ、国民行動変容(デコ活)に期待される役割

官民における施策の方向性

関係省庁等との意見交換も踏まえ、とりまとめてはどうか。

3. 本曰ご議論いただきたいこと

本日で議論いただきたいこと

(1. GX製品の需要拡大)

- GX製品が官民で優先的に調達・購入されるようになるためには、どのような仕組みが考えられるか。その際の課題は何か。
 - 公共調達（グリーン購入法等）における**特定調達品目・物品としての取り扱い等**
 - GXリーグ参画企業等、民間企業による**グリーン調達の促進**
 - とりわけ、Hard to abate産業における脱炭素投資の成果を、最終消費者に対し、どのように付加価値（GX価値）として訴求していくのか。

※現状では、部素材等の脱炭素ゆえの付加価値が最終製品の購入者に必ずしも訴求されていない

(2. GX製品の購入者インセンティブ)

- **企業のScope3の削減量が経済価値として評価される枠組**にはどういったものが考えられるか。例えば、金融市場におけるGX投融資はどうか。（[類型1]関連）
- 製品単位での ΔCO_2 を付加価値として、**企業のバリューチェーン上で、GX価値に対する対価を支払う機運の向上**のためには、どのような課題があるか。（[類型2]関連）
- 定量的な削減量に限らず**最終消費者に対して訴求できるプレミアム**は何か。次世代のステークホルダーへの機運醸成として、デコ活との発展的連携は考えられるか。（[類型3]関連）。
- これらを包括した「 **ΔCO_2** 」の考え方について、社会に受容されるために必要な論点は何か。その際、まずは国内ルール形成で見える化を促しつつ、特にアジアサプライチェーンを中心にグローバルスタンダードを目指してはどうか。